

現代の文明のベースは科学で、科学は客観評価や再現性が必要ですから、数値によるデータ化が必須になります。それは多方面に広がり、現代はあらゆることが数値化される時代だと思えます。さまざまなことに数値目標が設定され、状況の分析も図表やグラフ化して、見やすくわかりやすく示されます。そうしないと目を向けてもらえないということからでしょう。とにかく、さまざまなことの数値化が広く行われており、私たちもそれを見て理解し判断するクセがついてしまったようです。

生徒や子どもを見るのも、テストの点数を元にした成績、偏差値とか席次とか、評定平均値とか、さまざまに数値化されたものを頼りに、見てしまいがちです。しかし成績や席次などの数値は、自動車の計器が示す値に似ています。運転する時にきちんと見るべきはフロントガラスのずっと先であって、時々自分の状況を知るのに計器を見るでしょう。

人間の評価も、年収や資産で見えてランキングにしたり、さまざまな力を指標化して数値によるレベル分けが行われます。数値化すると、他と比べたり変化を知りやすくなることも容易です。相対的な位置関係を知るにも便利です。また数字だけで判断するのは、他の様々な説明的要素（主観が入る）を排除して、すっきりと、ある意味で公平に客観的に判断できると考えられます。

さて、本校の講堂（樹心閣）正面の「本尊は「南無阿弥陀仏」の名号です。「南無」とは、絶対的に信頼する、拠り所として生きていく、心から尊敬するというようなことを表します。「仏」は仏陀（Buddha、ブツダ、真理に目覚めた方）で「如来」ともいい、釈迦如来、薬師如来、大日如来などさまざまな名のブツダがおられます。その中で、「阿弥陀」を名告るブツダは、自分を信じて「南無阿弥陀仏」を称える者はすべて救いとすると誓願されたブツダです。どの人も捨てない。物差しを当てはめて選んで（他を捨てて）救うのはありません。

その「阿弥陀」はアミタ（Amida）の音写で、「mi」が「計測する、測定する、数値化して数える」というような意味ですから、「amita」は「はかることができる」ということになります。それは「計測不能」を意味しますが、同時に「計測無効」でもあります。私たちの日常的な大きな関心事である「数値化」が意味や価値をもたない、もつと言えば数値化すべきでない世界を、我々に投げかけています。比べない、序列化しない、相対的位置を問わない、選ばない、従ってあらゆるものを捨てません。どのいのちも無量であって、計測や比較や数値による価値付けはできません。

私たちは一見してわかりやすいものを求め、それによって様々な判断をしがちですが、実は数値化されたわかりやすく説明しやすいい部分以外が、圧倒的に多くを占めているのです。そこになかなか目が向きません。人間の、数値化できないことは、じっくり観察しなければ見えてこないこともありますし、瞬間的に直感的にわかることもあります。

私たちは比べたくて仕方がありません。他（ライバル）と比べたい。過去と比べたい。そういう気持ちも数値化に向かいます。しかし実は、数値化され比べられることは、人間そのものの、また人間の営みのうちのわずかのことでしかありません。勿論、だからと軽んずることはできません。数値で評価されることがはっきりしていることについては、数値的に高レベルを出すことに力を惜しんではなりません。最大の努力をすべきです。数値化された目標や達成度を上手に使って、自己向上の有効な手段としましょう。

しかしその数値はあなたの全人的な評価でも価値でもありません。その数値が示す事実と結果はきちんと受け止めた上で、それを遙かに上回る数字や記号では表せない素晴らしき価値があることを認識して欲しいと思います。今のこの自分は、今現在のこの世に必要なのだと、この世を支えて成り立たせている一人なのだ、自覚して欲しいものです。

私たちは否応なく数値に関心が注がれる社会で生活していますが、同時に無量の価値や尊さをもつものであると知らねばなりません。